

第66回青少年読書感想文全国コンクール課題図書

	書 名	内 容
小学校低学年の部 (1・2年生)	山のちょうじょうの木のてっぺん <small>最上一平/作 有田奈央/絵</small>	にしゃんのところの犬・ごんすけが死にそうです。にしゃんは元気がありません。ごんすけは、人のねんれいにするともう百さいぐらいのおじいさん犬です。ごんすけがいなくなるなんて。死ぬのはこわいけれど、どうやって死ぬのか、みてみたい気もしていました——いがらしくんは、にしゃんのいえに行くことにします——。
	ながーい5ぶん みじかい5ぶん <small>L・G・スキャンロン/作 A・ヴァーニック/作 O・タレック/絵</small>	れつにならないときは5ぶんなんてまてなーい!ジェットコースターにのっているときは5ぶんってあつというま!おなじ5ぶんでも、こんなにちがう。5ぶんはながい?5ぶんはみじかい?
小学校中学年の部 (3・4年生)	青いあいつがやってきた! <small>松井ラフ/作 大野八生/絵</small>	「よおっ!」とつぜんぼくの目の前にあらわれた、全身青いヘンなやつ。今日一日ぼくといっしょにすごす、だって!?な、な、なんで!?
	ポリぶくろ、1まい、すてた <small>M・ポール/文 E・ズーノン/絵 藤田千枝/訳</small>	プラスチックバッグ—日本でいうポリぶくろのゴミが、せかいじゅうでもんだいになっています。アフリカのガンビアというくにに、アイサトという女の人がありました。アイサトがすてた1まいのポリぶくろ。やがてゴミは2まいになり、それが10まいに、ついには100まいになりました。アイサトはじぶんたちでなんとかしようと、なかまたちといっしょにたちあがりました。これからも、きれいな村でくらししていけるように—。
小学校高学年の部 (5・6年生)	ヒロシマ 消えたかぞく <small>指田和/著 鈴木六郎/写真</small>	原爆投下前、戦争中であっても、広島町には笑顔にあふれた家族の日々の暮らしがありました。散髪屋さんである鈴木六郎さん一家の6人家族も、少しの不安はあったかもしれませんが、毎日笑顔で楽しく過ごしていました。あの日、1945年8月6日。一発の原子爆弾がヒロシマのまちに落ちました。たった1発の原爆が、六郎さん一家を消し去ってしまいました。
	月と珊瑚 <small>上條さなえ/著</small>	沖縄生まれの少女、珊瑚の日記からは、『ベルサイユのばら』のオスカルのような転校生へのあこがれや、沖縄の文化を伝えつづける祖母との生活、軍用機の轟音におびえる同級生の姿や、自分と友だちの将来の夢…そんな日常があふれてきます。沖縄の「今」を、少女たちは生きています。

※課題図書のため、貸し出し期間は1週間とさせていただきます。

桜道コミュニティハウス

